



2017.March



今号の内容

学園を
築立つ
前に

最高の4年間を振り返って
数学コースで得たもの
「元気」をくれた2年間

あ
退
た
職
る
て
に

人生を2倍にしてくれた鳴門
袖の大馬鹿
学生の内面に触れた15年間

国際交流

グローバル教員養成プログラム
生徒指導プログラム
大韓民国 光州教育大 学校
訪問レポート

けんこうてちょう
★健康★手帳

アメリカ国立衛生研究所(NIH)と
ワシントン日本語学校

この日は附属です
ようこそ、
ゆめのタウンふぞくへ
ボランティアの先生、
大好き! ほか

学園だより

GAKUENDAYORI

学園だより No.75

CONTENTS

2017.3

とげとげしい世界情勢において大人の知恵を大切に……………	1
	学長 山下 一夫
学園を築立つ前に……………	2
あつという間の4年間	英語科教育コース 末善 優香
最高の4年間を振り返って	音楽科教育コース 和田 瑛帆
スタートラインへ	幼年発達支援コース 和田 真依
人との縁に感謝	言語系コース(英語) 坂本 和恵
数学コースで得たもの	自然系コース(数学) 是枝 佑徳
感謝の6年間	生活・健康系コース(保健体育) 中野竜太郎
「元気」をくれた2年間	教職実践力高度化コース 山崎 美樹
退職にあたって……………	9
人生を2倍にしてくれた鳴門	教員養成特別コース 森 康彦
柚の大馬鹿	自然系コース(理科) 香西 武
学生の内面に触れた15年間	生活・健康系コース(保健体育) 廣瀬 政雄
先輩からのメッセージ……………	11
教師1年生	平成27年度卒業生 岩崎 麻友
国際交流……………	12
グローバル教員養成プログラム(韓国)生徒指導プログラム 大韓民国 光州教育大学校 訪問レポート	
	教職実践力高度化コース 木下 臣仁
学外研修の体験	学校教育研究科 冯 美娇
こんにちは附属です……………	16
平成28年度幼児教育研究会を終えて	附属幼稚園 教諭 川端 大樹
ようこそ、ゆめのタウンふぞくへ	附属小学校 教諭 清水 愛
技術部ならではの経験	附属中学校 教諭 谷 陽子
ボランティアの先生、大好き!	附属特別支援学校 教諭 尾関 美和
鳴潮祭を終えて……………	18
鳴潮祭を終えて	第33回鳴潮祭実行委員会 委員長 井上 皓太
学生会・院生会だより……………	19
本年度をふりかえって	学生会長 竹下早慧子
成長する院生会	院生会長 遠藤 雅大
課外活動News ～サークル紹介～……………	20
軟式野球サークル	軟式野球サークル 皆川 将吾
ダンス同好会	ダンス同好会 田崎 裕太
軽音楽部	軽音楽部 長濱 隆太
E S S 部	E S S 嶋田 翔吾
健康手帳「アメリカ国立衛生研究所(NIH)とワシントン日本語学校」……………	22
図書館だより……………	23
学生表彰……………	24
行事予定 / 編集後記……………	25

とげとげしい世界情勢において 大人の知恵を大切に

◆ 鳴門教育大学長 山下一夫



ポスト真実

「ポスト真実 (post-truth)」「事実に基づかない政治 (post-factual politics)」という言葉が、最近、よく耳にするようになりました。皆さんも聞かれたことはありませんか。

世論形成において、真実や客観的事実よりも、感情や個人的信条に訴える方がより影響力がある状況のことです。イギリスのオックスフォード辞書は、2016年世界の今年の言葉にこの「ポスト真実」を選びましたが、イギリスのEU（欧州連合）離脱の是非を問う国民投票やアメリカの大統領選挙を反映したものです。ポスト真実や事実に基づかない政治は、昔から我が国を含め世界中で存在し、その危険性は言うまでもないでしょう。

しかし、年が改まり2017年1月末現在においても、国際協調よりも何よりも「自国第一」で、事実かどうかは二の次にして「自国の正義」を振りかざし、他国の話に耳を傾けようとしない傾向が、一層強まってきているようです。世界中がとげとげしくなり、日本も戦争に巻き込まれるのではないかという「きな臭い」感じさえします。

山あらしジレンマ

ドイツの哲学者ショーペンハウエル（1851）は、次のような寓話を述べています。ある寒い冬の日、山あらしたちがお互いに暖め合おうとして近づくと、お互いが相手のトゲで傷ついてしまう。そこで離れるが、寒いので再び近づこうとする。そしてこのように近づいたり離れたりを繰り返すうちに、やがて山あらしたちは適度に暖かく適度に痛みを我慢できる、適度な距離を見つけ出した。

「ジレンマ」とは、相反する二つの事の板ばさみになってどちらとも決めかねる状態のことです。精神分析学の創始者であるオーストリアのフロイト（1921）は、この山あらしのジレンマについて、人間関係だけでなく都市や国や民族の間にも起こると述べています。そして、距離が近く親密になればなるほど、自分との些細な違いに対しても敏感になり、憎しみがつのることがある、と論じています。

私たちは、他人のトゲに対しては敏感ですが、

自分もトゲを持っていることを忘れがちです。トゲは身を守るために大切な役割を果たしますが、相手を傷つけることもあります。理想は、相手と暖かさと痛みを分かち合う関係になればいいのですが。

アイデンティティ

だれも皆、自分がポジティブに思える所（長所や好きな所）と、ネガティブに思える所（短所や嫌いな所）とがあります。ときには、ネガの感情に心がほとんど支配され鬱状態になる人もいます。逆に、傷つくことに過敏ゆえネガの感情を押し殺し、ポジの感情を前面に出し、幼稚で尊大な威張りん坊になる人もいます。

「私にはポジな所もネガな所もあるけれど、私は私が好きであり、私は私だ」と思っていることはとても大切です。そして、このように思えることが、実は「アイデンティティ・同一性 (identity)」や「自尊感情 (self-esteem)」と言われていることです。

そして、相手に対してポジな所もネガな所も含めて、自分と同じ所も違う所も含めて、全体として相手を尊重できるのが、成熟した大人の態度です。

大人の知恵

人間関係なら相手と距離を置き、さらには付き合わない、という手も十分考えられます。しかし、情報、人、物、金が世界中を駆け巡っている現在、鎖国をする訳にはいかず、いかに他国と付き合うのかは大事な問題です。

人間の場合も国の場合も、良い関係を築こうと思うなら、事実も感情も大切にし、ポジな所もネガな所も含めて全体としてお互いのことを尊重することが、まず基本です。そして、お互いに見つめ合うだけでなく、焦らずあきらめず粘り強く、未来志向で同じ方向を見るようにすることです。これが、大人の知恵と言えるものでしょう。

注：大人の知恵とは、山あらしジレンマやアイデンティティと関連していますが、臨床の知、生徒指導の知、時の女神、手のひら論などとも関連しています。しかし、紙幅が尽きてしまいましたので、ここで筆を擱くことにします。

学園を巣立つ前に

あっという間の4年間

◆ 学校教育学部 英語科教育コース 末 善 優 香

4年間はあっという間。そう思えるくらい、この小さな島での大学生活は、密度の濃い思い出でいっぱいになりました。

入学式の翌日から始まった一年次合宿。私にとっては、この日が英語科のみんなとの初めての出会いでした。だから、初対面の人と合宿に行くことに、とても緊張していたのを覚えています。でも、いざ合宿が始まってみると、本当に楽しくて、これからの大学生活が楽しみになりました。あれから、ここには書ききれないくらいたくさんの思い出をつくりました。学園祭に向けてダンスを練習したり、カラオケに行ったり、鍋をしたり、餃子をつくったり、巻き寿司をしたり。クリスマスにはプレゼント交換をして、英語コース会では学年全員で写真を撮って。大変だった教育実習や就職活動の時期には、みんなで励まし合って、支

え合ってきました。そして、4年経った今も、誰彼ともなく「4年生全員で集まろう！」という雰囲気になる英語科が大好きです。

私たちは、4月から、それぞれの場所で頑張ることになります。きっと、それぞれに悩むことも、苦しいこともあるでしょう。でも、どこかでみんなも頑張っていると思えば、たいていのことは乗り越えられるような気がします。

かけがえのない仲間たちに出会えて、素敵な先生方との出会いにも恵まれて、たくさんの学びがあった大学生活。こんな素敵な大学生活を送ることができたこと、この大学生活を支えてくださった方々に、本当に感謝しています。ありがとうございました。



学園を巣立つ前に

最高の4年間を振り返って

◆ 学校教育学部 音楽科教育コース 和田 瑛 帆

私がこの鳴門教育大学で4年間過ごして一番学んだことは、仲間や家族の大切さです。私はこの大学に入学するにあたって初めて家族のもとを離れ、一人暮らしを始めました。高校生のころまで、ご飯も掃除も洗濯もしてくれるのが当たり前、働いてくれているのが当たり前、家族がすぐそばにいるということが当たり前、すべてのことが当たり前であると思っていました。でも、一人暮らしを始めて、炊事、掃除、洗濯、自分の身の回りのことはすべて自分でやらないといけなくなって初めて、当たり前ではなかったこと、感謝すべきことだったということに気づきました。家族がすぐそばにいてくれるという心強さ、家族という存在の大きさに気づかされました。そんな家族と同じくらい大切な存在が友達です。私の周りには、辛かったりしんどかったりしたときに何も言わずそばにいてくれる友達がいました。何でも話せて真剣に話を聞いてくれたり、力になってくれる友達がいました。どんなときもそばにいて支えてくれる、家族のような存在の仲間がたくさんいてくれたおかげで、私はこんなにも充実した素敵な大学生活を送れたのだと思います。本当にこの大学に入学して良かったと心の底から思います。

また、この4年間で最も印象に残っていることと言えばもちろん実習です。主免実習、副免実習を通して子どもたちの笑顔に何度も救われました。毎日給食を食べたり、遊んでいるときの笑顔、わからなかったことがわかるようになったり、出来なかったことが出来るようになったとき

の笑顔、子どもたちの毎日の笑顔が本当にキラキラしていて、この笑顔を見るために明日も頑張ろうと思えました。自分が一生懸命考えて行った授業の振り返りシートに書かれたたくさんの感想を見たときは本当に嬉しくて、達成感のようなものを感じました。また、運動会や学校祭で子どもたちが今まで頑張ってきたことを発揮しているのを見て、とても感動しました。主免実習、副免実習を終えて、私はやっぱり子どもたちが大好きだということを再確認し、改めて教師になりたいと感じることが出来ました。この実習で得たこと、感じたことは私の一生の宝物です。

私は4月から小学校教員として働きます。今の感情はと聞かれると楽しみよりも不安しかありません。自分なんかが先生と呼ばれる立場になって良いのか自信がありません。ですが子どもが好きだという気持ちは負けません。その気持ちを大切に、この4年間で学んだことを活かして頑張りたいと思います。そして私がこの大学で最高の仲間に出会えたように、学校という場所を素晴らしい仲間に出会える場に出来るように頑張っていきたいです。



学園を巣立つ前に

スタートラインへ

◆ 学校教育研究科 幼年発達支援コース 和田 真 依

今年の春から、新人教師として学校の教壇に立ちます。自分自身のことなのに、修了間際になった今でもあまり実感が沸きません。ずっと目標だったはずなのに、不思議なものです。けれども、ふとした時に「来年から自分の学級が持てるんだ。」と思うことがあります。すると心の中に、不安がこみ上げてくる一方、新しい出会いにとってもわくわくしている自分を感じます。

小学生の頃、私はとても人見知りで、引っ込み思案な子どもでした。それこそ小学校の先生になるなんて大学生になるまで考えもしていませんでした。なので、大学院に進学した時は正直胸の中は不安だらけで、大学院入学当初、教育の知識も浅い私が、3年間で本当に教師になれるのか、よく不安に思ったものです。

しかし、鳴門教育大学での3年間で、私は様々な経験を通し、多くを学びました。慣れない勉強や実習で戸惑うことが何度もありました。ですが、それでも前に進むことができたのは、これまで出会ってきた方々のお蔭です。分からないことを教え合い、困った時には相談し合える友人の存在はとても大きく、何度助けてもらったか分かりません。また不安だった教員採用試験対策では、長期履修センターの先生方、就職支援室の方々、また県

人会や集団討論グループの学生のみなさんには、本当にお世話になりました。苦手なはずの面接や模擬授業対策も、みなさんと切磋琢磨し、励まし合うことでとても充実した、楽しい時間となりました。

こうして改めて3年間を振り返ると、私がこうやって自分のペースで目標に向かえたのは、コースの先生方にいつも暖かく見守っていただいていたからだなあ、としみじみ感じます。常に学生の立場に寄り添い、指導してくださる先生方に、私は安心して学んでいこうと思えました。特にゼミ活動では、研究の方法を学ぶ勉強会に参加させていただいたり、様々な教育実践を行う方々を紹介させていただいたり、貴重な体験をたくさんさせていただきました。論文を書いたことがなかった私が、自分の研究を成し遂げられたことも、私にとって大きな財産となりました。本学で出会ったみなさんには、本当に感謝の気持ちが絶えません。

こうした素敵な出会いを経て、私はまた、新たなスタートラインに立とうとしています。相変わらず頭の中は不安でいっぱいです。ですがいつだって始まりは不安なものだと思います。大学院生活同様、これからも素敵な人達に巡り合えることを信じ、少しずつ歩みを進めていきたいと思っています。



学園を巣立つ前に

人との縁に感謝

◆ 学校教育研究科 言語系コース（英語） 坂本 和 恵

2年前の4月、不安しかないまま、本校の入学式を迎えました。小学校教諭である私の不安は英語コースの勉強についていけないのかということでした。予想は的中し、授業についていくことはなかなかできませんでした。周りからみれば、「英語コースだから、英語ができる人。」と思われるかもしれませんが、英語を科目で教えたことのない小学校教員ですので、英語を勉強してきている人が持っている基礎勉強が全くできていない状況でした。もちろん、英語は話せないし、聞くこともままならない状態でした。

落ち込んでいた日は、二つの言葉を思い出して不安を和らげるようにしていました。一つ目は、子どもたちからの言葉。「先生、ぼくらもがんばるき、先生も大学でがんばって勉強してきてや。」という言葉です。二つ目は所属校の教頭先生が「小学校の先生は外国語教育にみんな不安です。その、代表として行ってきなさい。」という言葉でした。しかし辛かったことばかりではありません。こんな状況の私を英語コースの先生方や同期の若い院生・現職教員が救いの手を差し伸べてくれました。授業中、困っている私にわかりやすく丁寧に教えてくださったり、声をかけてくださったりしました。宿題や課題も休憩時間などを利用して教えて

くれました。言葉では表せないほど感謝の気持ちでいっぱいです。

本学ではまた、他にもよかった点があります。他コースの授業も受講でき、音楽・陶芸・家庭科・国際と学び、それぞれの分野で活躍をしておられる先生方に教えていただき、視野を広げることができました。

2年間が終わり、振り返ってみると、いろいろな人と出会い、考えを聞き、交流できたことは、自分の大切な財産となりました。

これから教員を目指す人たちとも交流ができ、現場に帰って中堅教員としてどういう立場でいいといけないかということも、学べました。

2年間、本当にありがとうございました。本校で学んだことを現場で活かしていきます。みなさんとの出会いに、かけがえのない友に出会えた縁に感謝しております。

勝手ながら、最後にメッセージを贈らせてもらいたいと思います。「これから、教員を目指すみなさん、この大学ではたくさんの事を学ぶ事ができます。教員になることの不安もあると思いますが、『あいさつ』『人の話を聞く』『わからないことは聞く』これができれば大丈夫です。そんなみなさんを現場でお待ちしております。」



学園を築立つ前に

数学コースで得たもの

◆ 学校教育研究科 自然系コース（数学） 是 枝 佑 徳

私は学部の4年間、大学院2年間合わせて6年間をこの大学で過ごしました。学部に入學した当初は、「どんな教員になりたいか」という考えも「こんなことをしてみたい」という目標も特になく、教員になれば自分の好きな数学と剣道を続けていくの一番現実的だと話してくれた中学校の担任の先生の言葉に従い教員を目指しました。実のところ、鳴門教育大学は就職率が良いので教員になりやすいのではないかとこの大学を選びました。私は小学校で算数を習っている頃から誰かに説明することは自分の中であやふやだった知識がはっきりする気がして好きでした。鳴門教育大学で専門性を高めることを通して、説明するのが好きなだけでは教員として十分ではないと感じました。私にどのような知識や能力があれば、子どもたちに数学を理解させられるかを、自分なりに考えました。その結果、私は今以上に自分自身が数学を分からなければならないのではないかと思います。そして学部を卒業する時に、「少しでも数学の理解を深めるために勉強をしよう」と思い、大学院に進学しました。

大学院の授業では、常に教員となったときにどのように自分の知識を活用して教育に役立てていくのかということ念頭に置いて授業をしていただき、問題や問題を解くことを通じて、今まで得た数学の知識をどのように発展させるのかを実感し、子どもたちが学び続けていくために何が必要

なのかを考えることが出来ました。また、研究では私の興味のある「 p -進数」に関するテーマを取り上げていただき、今の私に足りないことを指導していただいたので苦しくはあっても研究の楽しさを感じながら生活できました。特に数学を学習するうえで苦手としていた証明は、研究の過程で確実に力がついたと思います。

今、修了を目前にして、数学の勉強をしっかりと理解出来たのかと聞かれると「した」とは言い切れませんが、「数学を一番頑張った」と胸を張って言えます。数学を頑張ったのは、色々な知識や考え方を教えて下さり、授業外であっても私たちのことを支えてくださったコースの先生方がいてくれたからこそだと思います。また、一人だけで数学を勉強していたら妥協とあきらめの多い院生生活になっていたと思いますが、周りで他の学生の頑張る姿を見て「自分も負けてられない」と思い、踏ん張ることが出来ました。これからの生活で鳴門教育大学での6年間、特に大学院の2年間程充実した生活はあるのだろうかと思いますが、次は、私が教員として生徒に少しでも良い環境を用意し、成長の手伝いをするので、今以上に充実した日々が過ごせるように頑張っていきます。



学園を築立つ前に

感謝の6年間

◆ 学校教育研究科 生活・健康系コース（保健体育） 中野 竜太郎

「あっという間だったな。」

ありきたりかもしれませんが、しかし、こうならないために、1日1日を大切に、後悔なく、楽しんできたつもりでしたが、今となっては、鳴門での生活は短いものに感じられます。

私は、学部生の時から、現在の大学院生まで鳴門教育大学に在籍し、今年で6年目になります。学部生時代も、院生時代も、周りに助けられ、支えられた学生生活を過ごしてきました。

大学では、体育科に入学し、大学院への進路も保健体育コースを選択しました。学部生時代と同じ大学であるとは言え、ここからまた新たな学生生活の始まりでした。今まで学生生活を共に過ごした友人が卒業していなくなり、心細くなっていましたが、新たな大学院の先輩、同学年の友人、学部生の後輩達との巡り会いの機会にも恵まれ、多くの人の支えで、毎日楽しく過ごしていくことができました。

しかし、大学院は、楽しいことばかりではなく、学部生時代とは違って、研究・学会・修士論文作成等が重くのしかかってきました。正直に言うと、大学院生というものを少し甘く考えていたような気がします。特に、学会では、2年間で4回の研究発表を行い、他大学の先生方の難しすぎる質問

や意見に苦しみました。しかし、そのお蔭で、研究の世界を垣間見ることができ、広い視座に立って思索することの重要性を学修することができました。

また、もうひとつの貴重な経験をすることもできました。それは、大学院2年次から鳴門教育大学附属中学校の非常勤講師として、1年間保健体育科の授業を実践できたことです。来年度から、中学校保健体育科教員に採用され教職に就くことが内定しているだけに、この1年間の講師の経験はとても価値ある貴重なものだったと感謝しています。この恵まれた体験の成果を来年度からの教員生活に是非活かしていかなければならないと決意を新たにしています。

私は、この6年間で、人と人との出会いはとても素敵だと改めて実感しました。今は、大学で、附属学校園で、そしてこの鳴門という地域社会で、それぞれに出会うことのできたたくさんの人達への謝意の想いでいっぱいです。教職は、人と人との関わり合いがとても大切な職業だと思います。大学院修了後の新天地でも、出会いを大切に、周りの人達への感謝の気持ちを常に抱きつつ、日々の生活を楽しんでいきます。



学園を巣立つ前に

「元気」をくれた2年間

◆ 学校教育研究科 教職実践力高度化コース 山崎美樹

生まれ育った高知から出たことのない、箱入り娘 (!?) の私が、遅ればせながら初めて地元を離れて学生生活を過ごしたのがこの2年間でした。はじめは不安も大きかった単身赴任生活。しかし教職大学院での日々を振り返って一番よかったと思うのは、家族に「元気になったね」と言われることです。自分でも確かにその実感はあります。

その理由の一つは、多くのなかまが出来たことです。自然と座る席が決まり、いつもの顔ぶれが揃うと何となく落ち着いた共通科目の授業。院生室には全国各地から、校種も年代も違うメンバーが揃って一風変わった「職員室」が出来上がり、そこには授業時間以外の学びがたくさんありました。

また村川ゼミでは、研究テーマの近いなかまと議論を重ねることにより、ともに前に進んでいるという実感がより強くありました。ドキドキしながらゼミ生4人だけで行った先進校視察や、ゼミ旅行を兼ねたセミナー前夜、ホテルで深夜にまで及んだ特別ゼミなど、懐かしい思い出がたくさんあります。共に学んだ仲間が全国に、各校種にいます。これから先何かに悩んだ時、これほど心強いことはありません。そんな支えが、私を元気にしてくれたのだと思います。



村川先生の誕生日にゼミのメンバーで

もう一つの理由は、教師として自分の世界が広がったことです。現場の教員なら1年に数回、各地に出張して聴くようなお話を、毎日の授業で聴くことができる贅沢。これまで手に取ることもなかったような本も、開けば実践のヒントにあふれていました。時間割の調整や出張費を気にせず、身軽に勉強会や先進校へ足を運ぶこともできました。そういう経験は、今までの自分が日々の仕事と天秤にかけ、妥協してきた部分です。そのジレンマから解放されたことで、前向きな気持ちで課題に向かうことができました。

また勉強の時間以外にも、ウォーキングを始めた。学生割引を利用して映画館や美術館に足を運んだり、これまではできなかったことを楽しんだ2年間でもありました。一見仕事とは関係のない時間ですが、不思議なことに、ウォーキングの途中で実践のアイデアを思いついたり、映画や読書を楽しむ中で、生徒に伝えたい美しい表現を見つけたりもします。自然な生活の中だからこそ気づくもの。これまで見落としていたことに気づいているという実感が、私をさらに元気にしてくれました。

2年前の4月1日、誰もいない静かな院生室からスタートした鳴門での学園生活。今、「鳴門に来てよかった」と思えるのは、共に学んだなかまと、笑顔で手を差し伸べてくださる先生方、そして私の背中を押してくれた家族のおかげです。その感謝の気持ちとともに、学園を巣立ちます。本当に、ありがとうございました。



人生を2倍にしてくれた鳴門

◆ 教員養成特別コース 准教授 森 康彦

私にとって鳴門は期間としては短いけれど、人生を2倍にも3倍にもしてくれるものであった。私は、平成7～8年度に現職院生として大学院教育方法コースに内地留学した。初めて知る言葉や概念。夜遅くまで仲間と取り組んだ論文講読のディベート準備。新鮮で刺激的な毎日だった。院修了後も、指導教官だった小野瀬雅人先生や院生仲間との交流の中で本の原稿を執筆する機会を得たり、三宮真智子先生と共同研究を続けたりと、私の教職人生はとても豊かなものになった。

そして、縁あって今度は大学教員として、教員養成特別コースでお世話になることになった。

20年ぶりの鳴門の風景は、それほど変わっておらず、真っ青な大きな空が私を迎えてくれた。そして2年間。学生に何が伝えられるか、自分の力量に不安を感じていたが、コースの先生方に助けられ、何とかやってこれた。また、先生方の研究や、それに熱を込めて取り組む姿に刺激を受け、私自身研究に携わる喜びを味わうことができた。

すでに学校現場を退職した私にとって、大学教員という立場での人生があるとは夢にも思わなかったことである。私の人生をこのように豊かなものにしてくれた鳴門教育大学に厚く感謝すると共に、ますますの発展を祈念する。



柚の大馬鹿

◆ 自然系コース（理科）教授 香西 武

早いもので、43年間の教員生活が終わろうとしています。昭和36年度に実施された系統的な学習を重視した指導要領で学び、教員になってからは、「教育内容の現代化」、「ゆとりと充実」、「新学力観」、「確かな学力」、「脱ゆとり教育」と、10年ごとに振れる振り子の中での教員生活でした。その中で体得したことは、自分が留まるためには、振り子とは逆方向に力を出せばいいということでした。

1999年4月に本学に着任して以来、19年間の長きにわたり勤務させていただきました。

その間に様々な改革があり、私にとって厳しい状況の時もありました。しかしながら、教育現場を離れる際の決意は持ち続けることができたと思っています。

本学で知った国際教育支援の仕事は、自分の目の前にあった霧を取っ払ってくれました。今後は、教員生活で得たものを糧に、JICA研修を通じてできた人脈、元学生・院生との人間関係を保ちながら新たな人生に向かいたいと思います。

桃栗3年柿8年、柚の大馬鹿18年（坪井栄）





退職にあたって

学生の内面に触れた15年間

◆ 生活・健康系コース（保健体育）教授 廣瀬政雄

医学のみに関係した25年間と本学での15年を終えることになりました。徳島大学、国立がんセンター、米国国立衛生研究所（NIH）などでも多くの友人と経験に恵まれました。

本学での短い期間にも、学生のあり様に時代の流れがよく反映されるように思えました。赴任当時の学生は、一様に挨拶ができて素直、授業中の態度もよく、また、研究室を訪ねてくる学生も多く、健康面では、心身健康センターでたむろするほど学生の出入りがあり、学生らしいトラブルもよく持ち込まれました。その後のゆとり教育の世代は、授業中居眠りをするものが多く、態度にゆとりがないように思えました。現在の学生は、個性の異なるものからなる集団になったように感じます。自己管理がよくなったのか、心身健康センターを訪ねる学生の人数が随分少なくなったよう

に思います。

このように、医療面での相談に応じることで、授業だけの付き合いでは恐らくわからない学生の真実に触れることが出来たのではないかと感じています。鳴門教育大学が学校教育の中心的存在として、長きにわたって活躍されることを祈っています。



先輩からのメッセージ



教師1年生

◆ 平成27年度卒業生 岩崎麻友

私は、昨年3月に鳴門教育大学を卒業しました。大学では、小学校の家庭科教育コースに所属していました。今は、和歌山県の小学校に勤めています。

今になって振り返ってみると、大学での4年間はとても楽しく、人生においてとても貴重な時間だったということを実感します。私自身も大学時代は、軽音楽部でみんなと活動したり、バイトをしたり、休みの日には友達と一緒に遊びにいったりと毎日とても楽しく充実していたと思います。

仕事に行きだした当初は毎日がバタバタしていた感じでしたが、少し経つと生活リズムや仕事自体にも随分慣れていきました。

教師の仕事は本当に多岐に渡っていて、宿題やテストの丸付け、子ども同士のトラブルの話し合いや事務処理など想像以上にしなければいけないことがたくさんあります。そのどれもが初めての経験で、最初は子どもとの関わり方や保護者の方への電話対応、授業の進め方など本当に何をどうしたらいいのかわからないという言葉がぴったりでした。しかし、わからないことや困ったことがあった時には先輩に相談をし、困ったことがあっても助けていただき、そのおかげで、この1年間やり遂げることができたと思います。

ここまでの文章を読むと、大変なことばかりのように感じるかもしれませんが、毎日家に帰って一日の出来事を振り返ると、「今日も一日楽しかったな～明日も頑張ろう。」という気持ちになります。分からなかった問題が分かる様子を

見たり、「授業楽しかった。」という言葉を知ると、とても嬉しくなります。毎日、子どもたちが頑張っている姿を見ることができたり、成長を感じることができたりとやりがいを感じています。

大学での先生方や友達との出会いは、今でも私を支えてくれていると感じます。大学に帰るとお世話になった先生方が優しく迎えてくれます。休みの日には、今でも大学時代の友達や先輩、後輩と遊んでいます。大学時代のように毎日とは会えないけれど、大学時代に帰った気持ちになり、平日はまた頑張ろうと思えます。

普段の講義やレポート、教育実習、卒論や教員採用試験など大学時代に経験した全てのことが、今の自分の糧になっていると今では思います。

大学での出会いや経験は社会に出ても大切で、素晴らしいものであると思います。大学にいる間にどんなことにも全力で取り組み、意味のある4年間にしてください。





グローバル教員養成プログラム（韓国）生徒指導プログラム 大韓民国 光州教育大学校 訪問レポート

◆ 鳴門教育大学大学院 学校教育研究科
高度学校教育実践専攻 教職実践力高度化コース 木下 臣 仁

グローバル教員養成プログラム（韓国）生徒指導プログラムに参加し、平成28年12月1日～2日にかけて韓国光州にある光州教育大学校を訪問しました。今回の韓国研修プログラムは、光州教育大学訪問を中心とした内容で、日韓における学校教育のあり方あるいはいじめや暴力行為など、双方の教育的課題を比較しながら深く考えることができました。

1. 光州教育大学附属小学校授業参観及び施設見学

校長先生、教務担当の先生から、学校の教育方針や生徒の現状を中心に具体的な説明を受けました。小学校では、子どもの主体性を伸ばすために、ある程度の自由度を保ちながら、授業を実施しているとのことでした。その後、5年生の歴史及び

英語の授業、2年生の国語の授業を観察しましたが、どの授業においても、子どもは授業の目的を理解し、仲間とともに熱心に学んでいるように感じました。

また、5年生の歴史授業担当者の記録を拝見した際、毎回の授業における簡易的な指導案、子どもの発言や感想等が細かく記されており、教師の授業にかける熱意を感じました。事前の説明で、学力的に高い子どもたちであることは理解していましたが、だからといって授業の質が高くなるとは思っていませんでした。むしろその逆で、子どもの主体性に重きをおくことによる弊害として、授業規律がおろそかになるのではないのかと考えていました。しかし、実際の子どもたちの様子からは、自然な形で主体的かつ協働的な学びの姿が定着しているように感じました。

授業見学後、施設見学を行いました。校内の施設は充実しており、美しく整理整頓されている印象を受けました。教室環境は、日本との違いをさほど感じませんでしたが、研究授業等で使用される「授業研究教室」は、マジックミラーで授業スペースと参観スペースが別れていることにとっても驚きました。「授業研究教室」を使用すれば、指導者と子どもだけの様子を客観視でき、授業を分析しやすくなると思いました。日本のスタイル（授





グローバル教員養成プログラム（韓国）生徒指導プログラム 大韓民国 光州教育大学校 訪問レポート

業研究の在り方) を否定するつもりはありませんが、率直な感想として、日本でも「授業研究教室」を使用するような形での研究授業の在り方を視野にいれる必要があると思いました。

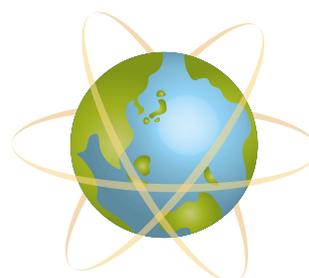


ないことをどう考えているのかという率直な感想を持ちました。日本においてもいじめに関連する問題行動が起きた場合、はっきりとした因果関係を特定できないこともあります。教師は、子どもどうしの関係を把握する努力を惜しんではいけません、努力しても十分な実態把握につながらないことも現実にはあると思えます。それでも、最後まで関わろうとする姿勢がなければ、教師の存在意義が失われるのではないかと考えます。深刻な事態であっても教師としての責任を背負うことが私は大切だと思いました。

2. いじめ問題に関する日韓の現状を踏まえたワークショップ

日本のいじめや韓国の学校暴力（いじめの内容も含む）の問題を中心に意見交換を行うワークショップに参加しました。日本におけるいじめの現状、韓国における学校暴力の現状を話し合う中で、それぞれの認識に違いがあることがわかりました。

韓国の小学校教員から近年の学校暴力の現状説明を受ける中で、問題が起きた場合、担当の教員が直接関与できない対策委員会が設置されるという内容は興味深いものでした。説明からは、調査をしても学校が原因を特定できないことが設置理由であると理解しましたが、担当の教員は関われ





グローバル教員養成プログラム（韓国）生徒指導プログラム 大韓民国 光州教育大学校 訪問レポート

3. まとめ

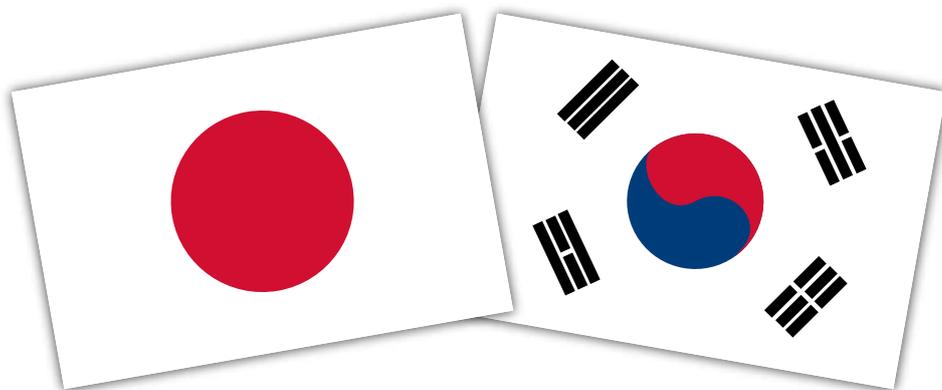
この他、全州韓屋村訪問で韓国の伝統的な建築物等を見たり、韓国の食文化に触れたりするなど、全体的な行程を通して異文化を感じることができました。普段の生活では、他国に関心をよせ、異文化理解に努めようとする機会は少ないのですが、今回の韓国研修を通じた、見る、聞く、話すなどの経験はとても貴重で、異文化理解のきっかけになったと思います。実際に現地を訪れたからこそ得られた学びでした。2日間の短い訪問ではありましたが、充実した研修となりました。

これまでの教職経験の中で、「総合的な学習の時間」に、国際理解の観点から、他国の方々をゲストティチャーとして招き、生活様式（言語、服装、食事）などの話を聞いて、自分たちの生活と比較して考える学習を実施したことはあります。

さまざまな国の方々からの話はリアリティがあり、生徒は興味・関心をもって学ぶことができました。ただ、教職員からは、国際理解の観点からリアリティのある投げかけができないという課題があり、いろいろな本やインターネット等で調査した情報だけでは、限界があるように考えていました。

今回のプログラムでは、韓国を訪問し、肌で感じたことが異文化理解のリアリティにつながると考えます。この経験を通して実感したことを今後の指導に活かしていきたいと思います。

研修の参加にあたり、光州大学関係者の方々はもちろんのこと、同行していただいた先生方、国際交流係の方々、院生の方々等、関係するすべての方々に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。





学外研修の体験

10月29日と30日の学外研修に参加し、日本の伝統・文化・工芸等を学びました。

まず、白鶴酒造資料館に行き、酒作りの工程を見学しました。

1.洗米 2.蒸し米 3.放冷 4.麴取り込み
5.酛仕込み 6.醪仕込み・醪出し 7.上槽 8.滓引き火入れ 9.貯蔵 10.樽詰という過程がありました。そのような伝統的な酒造りは非常に大事な文化遺産だと思います。飲むのは一瞬で終わる事なのに、作る時は高い技術を必要としているんだなと感じました。見学後、白鶴酒造の梅酒を試飲しました。非常においしく、口から胃まで甘さが長い時間で残りました。お酒が飲めない自分にとって、貴重な経験でした。日本のみんなはこんなに美味しいお酒を飲むことができ、幸せだと思います。また、自分の国の酒造工場に行ったことがないことを残念に思いました。

二番目の研修場所は、自分にとって非常に興味がある所でした。甲賀流忍術屋敷というところです。日本の忍者は世界でも有名です。今回、見学でき、非常にうれしくて、興奮しました。屋敷の



◆ 学校教育研究科 ^{ヒョウ} 冯 ^ビ 美 ^{キョウ} 娇 (中国)

中で、敵を捕まえる「どんでん返し」「落とし穴」を見て、忍者はすごく頭がいいんだと思いました。また、「隠し部屋」が一番気になりました。将来は自分の部屋に隠し部屋を作りたいです。

30日は、まず夫婦岩を見学しました。すごく風景がよかったです。

次は非常に神聖な神宮「伊勢神宮」内宮に行きました。私は自分の夢を祈りました。

最後は信楽陶苑たぬき村に行きました。陶苑という所に行ったことがありませんでした。そこで、可愛いたぬきの絵付けを体験しました。みんな座って、自分が好きな色を自由につけました。みんながまじめに、子どものように、自分の想像力を発揮しました。色付けは簡単に見えましたが、実際に体験すると、すごく難しかったです。

学外研修は、留学生と国際交流ボランティアのみんな一緒に、自分が経験した事がない事を体験できて、すごく楽しかったです。そして、日本の生活をもっと身近に感じることができました。日本での生活を、より一層理解し面白くできると思いました。



幼稚園

平成28年度幼児教育研究会を終えて

◆ 附属幼稚園 教諭 川 端 大 樹

平成28年度は、「どのような環境に、どのような個性をもった人たちが、チームとしてどのようにかかわり、どのような意味や価値を創出し、さらに保育のキャリアとしていくのか？」という循環する保育実践のダイナミックスを詳細に記録することをもとに研究成果をまとめました。11月19日（土）の幼児教育研究会では、全国から510名の参加者を得て、活発な協議がなされました。キャリアステージごとの分科会を企画し、参加型の研修を目指しました。

フレッシュ部会では、保育キャリアが5年目以下の若手保育者の方々に多数参加していただき、それぞれが日々の保育で感じる率直な悩みや思いが多く語られました。その中で、フレッシュだからこそ感じるものやつまづいていることなどが共通しており、同じような悩みや思いに共感しながら、

協議を深めることができました。悩みや迷いはつきませんが、それも共に考え、深めながら互いに切磋琢磨し合える若手保育者の輪が大きく広がっていくような気持ちになることができ、自分自身さらに努力していきたいと感じているところです。



小学校

ようこそ、ゆめのタウンふぞくへ

◆ 附属小学校 教諭 清 水 愛

附属小学校の第1学年では、子どもの生活の中から課題を発見し、子どもがその課題の解決を図ることをめざして、さまざまな学習活動を展開しています。その過程で、身に付けるべき資質と能力（ものごとに対する認識の深化・拡充、自己学習力、生き方の自覚）を育てることが本校の生活学習です。子どもたちには教科名は示さず、大きな一つの価値ある活動の中で、資質・能力を育てています。

11月には、附属幼稚園の山組さんと一緒に、お店屋さんごっこをしました。題して、「ゆめのタウンふぞく」。

一緒に活動する時には、双方の指導者とも互恵性ある交流になるよう気を付けています。また、異年齢で活動するからこそ身に付く資質・能力もあります。1年生の子どもたちは、普段の学習では、無自覚にことばを用いていますが、自分より年下の子どもと活動を共にすることにより、自覚的に

ことばを用いる体験ができます。

お店を決めるところから商品開発まで、できる限り一緒に活動し、開店しました。

当日は、校長先生をはじめとたくさんの方の教職員や上級生が来店し売り切れ続出。子どもたちも大変満足していました。



中 学 校

技術部ならではの経験

◆ 附属中学校 教諭 谷 陽 子

「どうしたら、速く走ることができる?」「なぜ、真っ直ぐ進まないのだろうか?」ロボットを製作する過程において、次々と湧いてくる疑問。「このネジを付け直したら上手くいったよ。」「〇〇君のロボットを真似してみよう。」矢継ぎ早に解決策が見付かっていく。でも、「何とか解決できたけど、次は、ここがおかしいよな〜。」また、課題が見付かる。…

ロボット製作においては、1つの課題を解決できても、次の課題が生まれることがよくあります。しかし、正解は1つではなく、完全に正しい答えはありません。それを、部員のアイデアからヒントを得て、解決策を見付けていきます。これが技術部の魅力です。個人のスキルを磨くことはもちろん、部員同士が協働して目標に向かっていくことで、卒業後に必要な大事な能力も育まれていきます。

現在、部員は44名。個性豊かな生徒たちが集まっています。4月以降、それぞれが自分の持ち味を

生かし、ロボットコンテストに向けて取り組んできました。トラブル続きの毎日でしたが、11月の大会に何とか間に合い、出場することができました。結果は思うようになりませんでした。この経験は生徒にとって大きな宝となったことでしょう。

12月からは、3年生の先輩方に送るための木工作品の製作に取り組んでいます。心を込めて一つずつ手づくりで作品を作っていきます。こうして技術部の一年は過ぎていくのです。



特別支援学校

ボランティアの先生、大好き!

◆ 附属特別支援学校 教諭 尾 関 美 和

「おはようございます」すがすがしい学生の声、児童生徒登校前の静かな教室に響きます。

附属特別支援学校では、数年前から大学生・大学院生のボランティアを受け入れています。小学部で始まった受け入れも現在では、学生の希望に応じ、中学部・高等部でも受け入れを行っています。毎年4月、大学でボランティアを募り、希望の学生には本校で事前研修を受けた後、ボランティアとして活動を開始しています。

子どもたちは、学生ボランティアの先生に会えるのを楽しみにしています。ボランティアの先生が教室に来ると、子どもたちは急いで近寄り、笑顔で挨拶をしたり、一生懸命話しかけたりと、大盛り上がりで、楽しい雰囲気が流れます。小学部では、朝の運動で一緒に走ったり、課題学習でわからないところを教えてもらったりしています。

また、図工や体育、中学部・高等部の作業学習など、教員と共に授業に参加しています。ボランティアに参加している学生にとっては、子どもの成長を身近で感じることができ、教員と一緒に授業を作っていく経験もできているようです。

今後も、1人でも多くの学生に、ボランティアを体験し、教育実習や将来の教員生活の糧となることを期待しています。



鳴潮祭を終えて

鳴潮祭を終えて

◆ 第33回鳴潮祭実行委員会 委員長 井上 皓太

皆さんにとって、今年の鳴潮祭はどうだったでしょうか？学祭の裏方というのは、想像以上に大変なものでした。スポンサー回りに模擬店準備、マスコットキャラクターの公募に企画の思案、テント設営から片付けまで大変のオンパレードでした。しかし、実行委員14人が協力し合ったことで、多少のトラブルはありましたが、無事に本番を迎えることができました。最終日には、学祭参加者で写真を撮りましたが、そこには数多くの笑顔が燦々とかがやいていました。この笑顔こそが学祭成功の何よりの証ではないでしょうか。

最後になりましたが、第33回鳴潮祭を開催するにあたって協力していただいたスポンサーの方々や地域の皆さん、そして何より苦楽を共に過ごした14人の実行委員のみんな、本当にありがとうございました。来年度の第34回鳴潮祭が今年度よりも盛り上がることを願っています。

(学校教育学部 国語科教育コース 2年)



学生会・院生会だより

本年度をふりかえって

私が学生会会長を務めて、もうすぐ1年となります。学生会執行部には今年度もたくさんの1年生が入り、活動がより一層楽しくなりました。また、今年も学生のみなさんからたくさんのご協力をいただき、活動を盛り上げることができました。ありがとうございました。

今年度は、例年行ってきたことを続けていくことに加え、新しいことに挑戦し続けてきました。前期では、恒例行事のうずフェスやかき氷大会に加えて、オープンキャンパスでの学生発信の学校案内の配布を行いました。そして後期では、イルミネーションやココアデーに加えて、フリーマーケットを行いました。学生のみなさんの参加で、より楽しいイベントにすることができます。来年度からもイベントへの参加をお待ちしています。みなさんの楽しい学生生活をサポートできるように、これからも学生会執行部一同、頑張っていこ

◆ 学生会長 竹下 早慧子

うと思っております。

今年度、学生会執行部として残す行事は、卒業・修了記念パーティーのみとなりました。お世話になった先輩方を気持ちよく送り出すことができるよう、院生会の方々と協力しながら、準備できたらと思っております。1年間ありがとうございました。



成長する院生会

平成28年度院生会が発足して早1年が経ちます。前期に引き続き後期も様々なイベントがありました。

11月には鳴門リレーマラソンがあり、院生会・学生会、ボランティア団体friendsを中心として、多くの本学学生に運営ボランティアとして参加していただきました。その結果、地域の方や参加者の方々に「楽しかったよ」、「運営お疲れ様」というお言葉をいただき、とてもやりがいを感じました。

12月には後期院生会主催行事である、ソフトバレーボール大会を開催しました。当日は午前中停電があり、皆様にはご迷惑おかけしましたが、約250名の院生の方々に参加していただきました。今年度は優秀な成績を収めたチームには、トロフィーと景品を授与しました。参加していただいた多くの方々から感謝のお言葉をいただきました。

残るは、学生会と共催する卒業・修了記念パーティーの運営と、来年度院生会がより円滑かつ自由に運営できるよう引き継ぎを、院生会一同全力

◆ 院生会長 遠藤 雅大

で取り組みたいと思います。

最後に、平成28年度院生会の活動にご協力いただきありがとうございました。来年度も院生会をどうぞよろしく願います。



課外活動 News サークル紹介

軟式野球サークル

私たち軟式野球サークルは毎週水曜（15：00～17：00）に近くの市営球場をお借りして練習しています。人数は全員で10人弱と少ないですが人数が少ない分結束も強いのでその分毎週楽しくやれています。また、月1で予定が合えば（ここ重要!! 強制参加ではありません!!）草野球チームと練習試合を行ったりもしています。経験者ばかりということもなく楽しく野球をやりたいという人達の集団なので経験者も大学から始めてみたいという方も野球が好きな人なら誰でもウェルカムです!!

基本活動が週1ということもあり部活動のようにしぼられることもまったくありません。また、お金の面で比較しても部活動に比べ出費はかなり少なく済みます。自分の時間も十分確保できて、週1で野球を楽しむのがこのサークルの魅力

◆ 軟式野球サークル 部長 皆川将吾

力だと思えます。1度参加すればその魅力にどっぷりハマるはず!!新入部員いつでも募集しています!!



<学校教育学部 理科教育コース 3年>
【平成24年8月1日設立】

ダンス同好会

ダンス同好会を去年の10月に設立しました!!一昨年まで鳴門教育大学には、ダンス部があったのですが、部員が集まらず廃部となってしまいました。そして、ダンスに情熱をもった新入生が入ってきてくれて、同好会からもういちど再結成という形で復活しました。今、ダンス同好会の部員は11人でそのうちの8人は1年生です。週1回のダンスの練習は、1年生が主体となって頑張っています。去年は結成した年ということで、あまり踊る機会がなかったですが、今年から、学内や徳島のイベントに積極的に参加したいと思っています。ほとんどの部員がダンス初心者なのでこれからいっぱい練習して、部の活動を増やしていきたいです。ダンスに興味がある方やステージで踊っ

◆ ダンス同好会 代表 田崎裕太

てみたいという方だれでも大歓迎です。私たちと一緒に鳴門教育大学のダンス部を創っていきましょう!!



<学校教育学部 算数科教育コース 3年>
【平成28年10月1日設立】

課外活動 News サークル紹介

軽音楽部

◆ 軽音楽部 部長 長濱 隆太

私たち鳴門教育大学軽音楽部は、学部生はもちろん大学院生も一緒に活動していて、部員40名ほどで活動しています。部員数が多く和気あいあいとしていて、先輩・後輩も仲がよく賑やかな部活です。部員の大多数の人が大学から音楽を始めた人なので、経験者はもちろん、初心者・音楽が好きな人は大歓迎です。

活動内容としては、学内で行われる定期的なライブ、大学祭でのライブはもちろんですが、徳島の他の大学の団体と協力して行う合同ライブなどの演奏や、夏のキャンプなど非常に充実したものとなっています。これからはさらに、学内以外の活動も充実させていきたいと考えています。活動していくにつれて音楽を通して、部員はもちろん様々な人と交流したり、他には変えられない経験ができるのもこの部活の魅力の一つであると思います。

大学から何か新しいことを始めたいと考えてい

る人、音楽が好きな人など少しでも興味を持った人はぜひ一度土曜日13時にクラブハウス2階まで気軽に来て下さい。部員一同お待ちしております！



<学校教育学部 社会科教育コース 3年>
【昭和61年5月20日設立】

ESS部

◆ ESS 代表 嶋田 翔吾

私たちESS (English Speaking Society) 部は、毎週木曜日に活動しています。活動内容は、週によって代わります。例えば第一週は皆で一緒に洋画を観る活動をしています。これはESSに所属していなくても観ることができます。興味のある人はぜひ参加してほしいと思います。他の週は、顧問のジェラード先生が色々なアクティビティーを持ってきてくれます。毎回することが違うのでとても面白いです。基本的には、言葉を用いたコミュニケーションを通して英語力を向上させるのが目的です。

また、年に2回大きな催し物があります。1つ目は、5月に行われるアメリカの大学生との交流会です。鳴門教育大学と交流のある大学の生徒が

やってきて一緒にバーベキューをします。ただバーベキューをするのではなくお互いに話し、交流することで親睦を深めたりします。日本にいても英語を使ってコミュニケーションを図ることがあまりないので、この交流会はとても貴重な体験になります。この活動も部に所属していなくても参加できます。2つ目は12月に行われるEnglish Campです。これは徳島県内の小学生を対象にした活動です。小学生でもわかるように簡素な英語を用いて楽しく活動をしています。もし興味を持った人がいましたら、ぜひ参加してもらいたいと思います！

<学校教育学部 英語科教育コース 2年>
【平成15年8月7日設立】

健康手帳

アメリカ国立衛生研究所(NIH)とワシントン日本語学校

◆ 心身健康センター所長 廣瀬政雄



一時期、日本版NIH (National Institutes of Health) の設立が話題になっていました。NIHに留学していたものとして懐かしい思いを抱かせてくれました。NIHは非常に大きい組織なので個人の経験で全貌を理解することはできませんが、参考資料にもあたって紹介したいと思います。

NIHは1887年に医学研究の目的で設立されました。首都ワシントンの北西20kmのベセスダというところにあります。自前の研究もしますが、世界中の医学研究を支援する役割もあります。国立癌研究所などの研究所と医学図書館 (National Library of Medicine) など全部で27の施設と事務局 (Fogarty Center) によって構成されています。図書館は医学研究の情報を提供していますので、PubMedを利用して個人のPCから情報を得ることができます。1万8000人以上のスタッフが勤めていて、そのうち6000人以上が科学者 (医師、生命科学研究者など) です。そのうち、外国からの研究者は約2000人で、日本人は長らく400人程度を占めていたということでしたが、私の滞在した時(1987-1989)には350人ほどでした。現在はもっと少ないかもしれません。

医学の研究は基礎研究と臨床研究に分かれています。臨床研究では多くの患者を対象にする場合がありますが、偶然来院される患者を待つ研究では、長い時間を必要とすることになります。場合によっては完遂できないこともあります。では、NIHでどうしているかといいますと、全米で登録されている患者に観光を兼ねてワシントンに来てもらって、研究に協力してもらうということでした。従って、稀な難病を対象にする場合でも数多くの症例がすぐに集まるということでした。アメリカで医学研究が早く進む理由のひとつかもしれません。NIHの支援を受けた研究でノーベル賞を受賞した研究者は、当時でも、100人を超えるといわれていました。

ちょうど私が滞在した時期に創立100年記念 (Centennial) の行事があり、プロスタグランジンの発見者で、NIHで部長を務められたあと、大阪バイオサイエンス研究所で所長を務められた、早石修先生が記念講演をされました。この前に、私の所属していたラボのボスのS. Kaufmanが早石先生に記念講演の依頼の電話をかけたのですが、聞いてほしいといわれて3人で電話したのは懐かしい思い出です。

日本人研究者の出身は、医学部だけでなく通産省などの中央官庁をはじめ全国の研究所から来ていました。家族で来ている人の子どもは、週日はスクールバスで現地の学校に通い、週末の土曜日に日本語学校に通わせます。ワシントン日本語学校では、バージニア州から2時間もかけて親が送ってきているような日本企業の関係者の子弟などもいました。日本語学校のスタッフで、校長は文部省 (当時の) から派遣されましたが、教師は教員免許を持っている保護者を現地採用していました。秋には現地校の運動場を借りて日本式の運動会で盛り上がりました。

現地校では外国人の子どもが授業を理解できるようになるまで、ESOL (English for Speakers of Other Language) で英語を勉強します。これは、英語の習得状況により、初級、中級、上級に分かれていて、それぞれがおよそ3か月単位からなり、1年弱で終了となります。日本人の子どもの中で、最も早い子では全課程を3か月くらいで終えてしまう子もいました。この指導は退役軍人などがボランティアでやってくれていました。現地校では小学校1年生でも相当レベルの高い英単語を週に20個程度を書き取りテストで覚えさせていました。また、学級では皆の前で定期的にスピーチをさせていました。

我が家の子供たちの英会話のレベルですが、当時小学校1年生だった長女は英会話と格闘しながらESOLに通いました。下の長男は3歳で、現地の保育園に通いましたが、あっという間に英会話ができるようになって、遊びや寝言などでも普通に英語をしゃべるようなレベルになりました。アメリカからの帰りの騒がしい空港で子ども同士で遊んでいるのに、空港の案内放送をきっちり聞いて理解しているのには驚かされるとともに、頼りになりました。

帰国後、長女は英会話の勉強を続けて、英検に挑戦するなどしたため、相当のレベルで英語が維持できたと思います。しかし、長男は塾などに通わせましたが、数年で完全に忘れてしまいました。涙ぐましい努力をした結果は身につくのに比べて、自然に身についたものは自然に、しかもあっという間に忘れてゆくものですね。

私の担当する健康手帳は今回で最後になります。15年間のご愛読をありがとうございました。

図書館だより

図書館では、みなさんの学び、考え、挑戦をサポートするため利用環境の整備や様々なサービスを提供しています。今回は、サービスの一部を紹介します。

①ラーニング・コモンズ室

学生の皆さんがグループでアクティブ・ラーニングを実践できるよう、2つのエリアからなるラーニング・コモンズ室を設置しました。模擬授業エリア及びグループ学修エリアのいずれにも電子黒板、プロジェクター等があり、学修イベント、グループ・ワーク等に利用できます。

模擬授業エリアは小学校の教室を再現し、iPad、ビデオカメラも利用できるので臨場感ある模擬授業を行うことができます。ただし、模擬授業エリアの利用には予約が必要で、1週間前から受け付けています。気軽に利用できるのも、不明の点は図書館カウンターにお問い合わせください。



②徳島県立図書館資料の取寄せ

徳島県立図書館の資料を無料で取り寄せできます。事前に登録が必要ですので平日17時までに図書館カウンターで手続きをしてください。早めに手続きを行い、徳島県立図書館の豊富な資料をご活用ください。

③データベース等

図書館ウェブページ (<http://www.naruto-u.ac.jp/library/>) で和洋電子ジャーナル、新聞記事、電子書籍などの検索・閲覧ができます。レポート、卒論・修論、日々の学習にご利用ください。

④マイライブラリ

学内の方に発行されている「ユーザーID（学籍番号or職員番号）とパスワードを使ってログインすると、利用者自身の図書館情報がオンライン（インターネット上）で確認できます。

- 貸出中図書の予約
- 現在借りている本の情報や返却期限
- 貸出期間の延長（予約者がいない場合に1回だけ可能です。）
- 他大学からの論文コピーや図書の取寄せ依頼
ご利用は、図書館ウェブページの「マイライブラリ」バナーをクリックしてください。

⑤卒業・修了後の図書館の利用について

卒業・修了後も図書館を利用することができます。利用方法としては、以下の2つの方法があります。

◎来館しての利用

図書の貸出、館内資料の複写等ができます。

図書の貸出をご希望の場合は、身分証（運転免許証、保険証等）を持参してください。「卒業生・修了生利用証」を発行します。

◎非来館での利用

利用者から申込みのあった図書について郵送等により貸出を行っています。なお、送料は申込者負担となります。

貸出手続きの詳細については、図書館ウェブページの「一般利用の方へ」→「非来館貸出」をご覧ください。ただか、電話でお問い合わせください。（TEL 088-687-6156）

*来館貸出、非来館貸出ともに図書の貸出冊数・貸出期間は以下のとおりです。

貸出冊数	貸出期間
8冊以内	1か月以内

※卒業・修了生へは雑誌の貸出はできません。

学生表彰について

本学には、課外活動等において、優秀な成績を修め、かつ本学の名誉を高めた場合において当該学生又は学生団体を学長が表彰する学生表彰制度があります。

平成28年度における表彰が決定した方々は、次の皆さんです。

	氏名(団体名)	所属(学年)		表彰事由
前 期	伊藤真由美	学部	中学校教育専修 保健体育科教育コース 2年	第38回徳島陸上競技カーニバル 一般女子 400mH 優勝 第87回徳島県陸上競技選手権大会 一般女子 400mH 優勝
	岡崎 愛由	学部	小学校教育専修 体育科教育コース 3年	第87回徳島県陸上競技選手権大会 一般女子 七種競技 優勝
	原田 佳奈	学部	中学校教育専修 数学科教育コース 3年	第70回中国四国学生陸上競技対校選手権大会 女子円盤投 優勝 第67回四国地区総合体育大会陸上競技 女子円盤投 優勝 天皇賜盃85回日本学生陸上競技対校選手権大会 円盤投 出場(参考)
	大谷 拓美	学部	小学校教育専修 学校教育実践コース 2年	第87回徳島県陸上競技選手権大会 一般男子 十種競技 準優勝
	川浪 大貴	学部	小学校教育専修 技術科教育コース 1年	第32回全国教育系大学弓道選手権大会 男子個人の部 第5位
	安村 英生	学部	小学校教育専修 学校教育実践コース 3年	第32回全国教育系大学弓道選手権大会 男子個人の部 準優勝
	永島 一隆	学部	中学校教育専修 技術科教育コース 4年	第48回徳島県知事杯弓道大会 準優勝
	栗田 昌幸	大学院	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース (技術・工業・情報) 2年	第23回徳島県50射選手権大会 一般の部 男子 優勝
	弓道部 (男子)			第32回全国教育系大学弓道選手権大会 男子団体の部 準優勝
後 期	栗野安香音	学部	中学校教育専修 国語科教育コース 3年	第35回徳島県大学剣道選手権眉山杯大会 女子個人戦 優勝
	久保こころ	学部	小学校教育専修 体育科教育コース 4年	第39回中国四国学生陸上競技選手権大会 女子800m 第1位
	中西 宏嘉	大学院	高度学校教育実践専攻 教職実践力高度化コース 2年	国際交流委員会の推薦による
	土井 美幸	大学院	人間教育専攻 現代教育課題総合コース 2年	第9回介護作文・フォトコンテスト 作文・エッセイ部門 学生の部 奨励賞
	金森 優太	大学院	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース (保健体育) 2年	第71回国民体育大会バドミントン競技徳島県予選 第1位 第67回四国地区大学総合体育大会 バドミントン 男子シングルス 第2位
中谷華奈子	大学院	教科・領域教育専攻 芸術系コース(音楽) 3年	第8回コンコルソ・ムジカルテ ステッラ部門 フルート 金賞	

行事予定

平成29年度前期

行事等		備考
4月1日(土)～4月4日(火)	春期休業	4月20日(木)「履修登録」締切 ※変更期間： 4月21日(金)～4月27日(木)
4月5日(水)	入学式	
4月5日(水)～4月6日(木)	新入生オリエンテーション	
4月6日(木)～4月7日(金)	新入生合宿研修	
4月10日(月)	授業開始	
6月13日(火)～6月14日(水)	附属校園観察実習(3年)【附幼・小・中】	
7月31日(月)～8月4日(金)	前期試験期間	
8月1日(火)～9月10日(日)	夏期休業(大学院)	
8月8日(火)～8月20日(日)	夏期休業(学部)	
8月24日(木)～8月31日(木)	集中講義	
8月25日(金)～9月29日(金)	教員インターンシップ(4年)【鳴門市内小中学校】	←期間中の2週間
8月25日(金)～9月29日(金)	主免教育実習(長期履修生)【協力校】	←期間中の4週間
8月28日(月)～9月8日(金)	保育所実習Ⅰ(2年)【鳴門市内保育所等】	
8月28日(月)～9月8日(金)	保育所実習Ⅱ(4年)【鳴門市内保育所等】	
9月4日(月)～9月29日(金)	主免教育実習(3年)(長期履修生)【附幼・小・中】	
9月4日(月)～9月15日(金)	教員インターンシップ(4年)【附幼】	
9月6日(水)	ふれあい実習(事前指導)【学内】	
9月11日(月)	ふれあい実習(観察実習)【附幼・小・中】	
9月12日(火)／9月13日(水)	ふれあい実習(交流実習Ⅰ)【鳴門市内幼稚園】	←どちらか1日
9月20日(水)～9月26日(火)	ふれあい実習(交流実習Ⅱ)【附特別支援】	←期間中の1日
9月11日(月)～9月30日(土)	集中講義(大学院)	
9月29日(金)～9月30日(土)	2年次生合宿研修	

就職支援行事予定

年月日(曜日)	時限	場所	行事名等	内容(予定)
平成29年1月～7月			教採対策特別ガイダンス	個人面接、模擬授業、場面指導、集団討論、集団面接等
	3	B101	教員採用試験対策説明会(学内)	教員志望学生への指導・助言
7日(金)	4	B101	教採対策ガイダンス(実践編①)	(講)集団面接・模擬授業・個人面接 (筆)これまでの教育と教育改革、各種答申等Ⅰ
中旬～5月下旬			教員採用試験説明会(教育委員会)	教員採用試験について
中旬～7月			英語実技講習	英語実技
4月	4	B201	教採対策ガイダンス(実践編②)	(筆)各種答申等Ⅱ、学習指導要領
12日(水)	4	B201	教採対策ガイダンス(実践編③)	(筆)特別活動、健康・安全教育、食育、生徒指導
13日(木)	4	B201	教採対策ガイダンス(実践編④)	(筆)教育法規
19日(水)	4	B201	教採対策ガイダンス(実践編⑤)	(筆)指導案と学習指導、学習方法、カリキュラム
20日(木)	4	B201	教採対策ガイダンス(実践編⑥)	(筆)道徳教育、人権教育、特別支援教育
22日(土)		B101	教員採用模擬試験②	受験希望者(2回目)【有料】
26日(水)	4	B201	教採対策ガイダンス(実践編⑦)	(筆)総合的な学習、環境教育、情報教育、キャリア教育
27日(木)	4	B201	教採対策ガイダンス(実践編⑧)	(筆)教育原理・教育心理・教育史、一般教養
～6月		D103	教採実技ガイダンス(音楽)	音楽実技(弾き歌い)
～6月			保育士模試	受験希望者【有料】
10日(水)	4	B201	教採対策ガイダンス(実践編⑨)	(筆)教育時事、一般時事、一般教養
11日(木)	4	B201	教採対策ガイダンス(実践編⑩)	(筆)適性検査(YG性格検査、内田クレペリン検査) (講)一次審査・二次審査の準備と今後の対策
17日(水)	4	B201	教採対策ガイダンス(実践編⑪)	模擬授業・個人面接(2回目)
18日(木)	4	B201	教採対策ガイダンス(実践編⑫)	兵庫県、徳島県、神戸市、大阪府・市、 堺市教員採用試験対策
20日(土)		B201他	教採実技ガイダンス(集団②)	その他自治体 未定
24日(水)	4	B201	教採対策ガイダンス(直前編①)	図画実技(鉛筆素描)
25日(木)	4	B201	教採対策ガイダンス(直前編②)	体育実技(ボール・器械運動、水泳)
25日(木)	4	就職支援 セミナー室	教採対策ガイダンス(直前編③)	個人面接、模擬授業、場面指導、集団討論、集団面接等
31日(水)	4	B201	教採対策ガイダンス(直前編④)	
1日(木)	4	B201	教採対策ガイダンス(直前編⑤)	
7日(水)	4	B201	教採対策ガイダンス(直前編⑥)	
8日(木)	4	B201	教採対策ガイダンス(直前編⑦)	
14日(水)	4	B201	教採対策ガイダンス(直前編⑧)	
15日(木)	4	B201	教採対策ガイダンス(直前編⑨)	
17日(土)		B101他	教採実技ガイダンス(個人②)	
21日(水)	4	B201	教採対策ガイダンス(直前編⑩)	
22日(木)	4	B201	教採対策ガイダンス(直前編⑪)	
28日(水)	4	就職支援 セミナー室	教採対策ガイダンス(直前編⑫)	
29日(木)	4	就職支援 セミナー室	教採対策ガイダンス(直前編⑬)	
7月	上旬		教採実技ガイダンス(美術)	
	上旬～下旬	体育館・ プール	教採実技ガイダンス(体育)	
	下旬～9月上旬		教採二次対策ガイダンス	

編集後記

『学園だより』第75号が完成しました。

この学園だよりには、これまで学生の皆さんが頑張ってきた成果がたくさん掲載されています。卒業のシーズンを迎え、卒業される皆さんにはこれまでの本学の学びを次のステージにつなげていくことが期待されています。在学生の皆さんはこれまでの先輩方の活動を引き継ぎ、より良いものにしていくことが求められます。学園だよりから見た皆さんの学びがより発展し、これからの活躍に繋がることを期待します。最後になりましたが、ご投稿いただきましたすべての方々から御礼申し上げます。

